

## 2021年5月16日 説教「わたしがいのちのパンです」

ヨハネの福音書6章22~35節

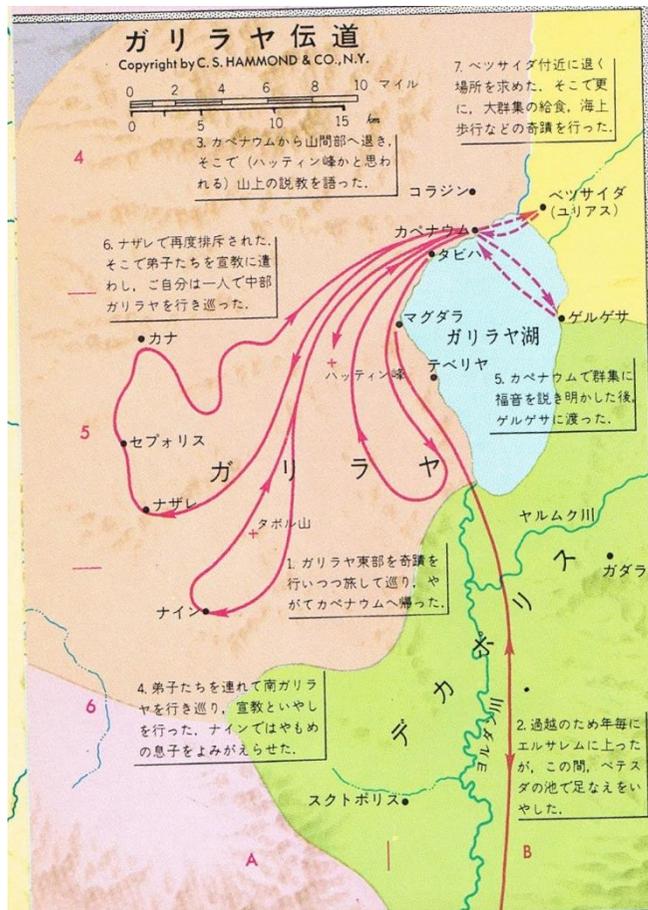
今朝からしばらくヨハネの福音書から、キリストが「わたしは〜である」(エゴー・エイミ)と言われたところから、学んでいきます。

### 1. イエスを捜す群衆 (22~25節)

- ① 小舟が一隻あっただけで (22) 「その翌日、湖の向こう岸にいた群衆は、そこには小舟が一隻あっただけで、ほかにはなかったこと、また、その舟にイエスは弟子たちといっしょに乗られないで、弟子たちだけが行ったことに気づいた。」 イエス・キリストはこれより前に、ベツサイダと思われる地において、五千人もの人々に給食をなさいました。五つのパンと二匹の魚を用いて、彼らを養われるという奇蹟がなされたのです。その後、弟子たちはガリラヤ湖上を歩く主と出会います。時はその翌日のことです。ベツサイダにいた群衆は、弟子達が一隻の舟に乗ってできかけたことに気づいていました。しかし、イエス・キリストはその舟に乗っておられなかったことも確認していました。
- ② ベツサイダに数隻の小舟が (23) 「しかし、主が感謝をささげられてから、人々がパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来た。」 「主が感謝をささげて、人々がパンをたべさせた場所」というのは五千人の給食がなされたベツサイダのことです。そのベツサイダにテベリヤから数隻の小舟がやって来たというのです。
- ③ 群衆はイエスを見つけ (24~25) 「群衆は、イエスがそこにおられず、弟子たちもないことを知ると、自分たちもその小舟に乗り込んで、イエスを捜してカペナウムに来了。そして湖の向こう岸でイエスを見つけたとき、彼らはイエスに言った。『先生。いつここにおいでになりましたか。』」しかし、群衆はその数隻の舟にもイエスが乗っていないし、弟子達もないことを知ると、イエスを捜し求めて、それらの舟に乗り込んだのです。行く先はカペナウムでした。そして、ここには湖の向こう岸とありますが、カペナウムにいて、イエスを見つけたのです。そして、彼らはイエスに尋ねたのです。「先生、いつここにおいでになったのですか」。彼らの言い方は、自分たちは必死になってイエス様を捜していたのですよといわんばかりでした。

### 2. まことにパンを得るためになすべきことは (26~30節)

- ① いのちに至るパンのために (26~27) 「イエスは答えて言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。なくなる食物のためではなく、いつまでも保ち、永遠のいのちに至る食物のために働きなさい。それこそ、人の子があなたがたに与えるものです。この人の子を、父すなわち神が認証されたからです。』」キリストは大事なことを言われる時によく、「まことに、



まことに」と言われました。「アーメン、アーメン」という言葉です。群衆がキリストを捜していたのは、キリストの御力ではなく、パンで食欲が満たされたからだと言われた上で、見えるパンではなく、永遠のいのちに至るパンのために働くべきことを教えられます。また、それは、キリストのみが与えられとも明言されました。

- ②何をなすべきか (28~29) 「すると彼らはイエスに言った。『私たちは、神のわざを行うために、何をすべきでしょうか。』」群衆はなんらかのなすべきことがあるのなら教えてもらいたいとたずねます。彼らには、何か「する」ことによってしか道を究めることはできないと思われたからです。
- ③信じること (30) 「イエスは答えて言われた。『あなたがたが、神が遣わした者を信じること、それが神のわざです。』」しかし、キリストはあえて、それらの行いのことはいわれずに、「神が遣わした者」、つまりキリストご自身を信じるべきことを教えられたのです。何かを行う事より前に、救い主を信じることこそが、神のわざなのだ、と示されたのです。

### 3. キリストの宣言 (31~35 節)

- ①しるしを求める民 (30~31) 「そこで彼らはイエスに言った。『それでは、私たちが見てあなたを信じるために、しるしとして何をしてくれますか。どのようなことをなさいますか。私たちの父祖たちは荒野でマナを食べました。『彼は彼らに天からパンを与えて食べさせた』と書いてあるとおりです。』」彼らは信じるためのしるしを求めます。つまり、奇跡的なみわざを見せてもらいたというのです。つまり、出エジプトしたイスラエルの民が荒野において、マナを食べた時のことを例に出したのです。つまり、自分達の偉大な指導者であったモーセは、そのマナを民に与えてたべさせた、そのようにあなたもそのようにしてくださいと要望したのです。
- ②父なる神からのパン (32~33) 「イエスは彼らに言われた。『まことに、まことに、あなたがたに告げます。モーセはあなたがたに天からのパンを与えたのではありません。しかし、わたしの父は、あなたがたに天からまことのパンをお与えになります。というのは、神のパンは、天から下って来て、世にいのちを与えるものだからです。』」イエスは彼らの勘違いを正します。つまり、モーセがマナをもたらしたのではなく、父なる神が、天来のパンを与えたのだということを示されました。そして、父なる神は見えるパン以上のまことのパン、いのちのパンを与えてくださると、教えられたのです。そのパンは世の人々にいのちを与えるとも伝えられました。
- ③わたしがいのちのパン (34~35) 「そこで彼らはイエスに言った。『主よ。いつもそのパンを私たちにお与えください。』」イエスは言われた。『わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えるこ

とがなく、わたしを信じる者はどんな時にも、決して渴くことはありません。』」民は求めます。「主よ。そのパンをお与えください!」。その時に、主は明言されたのです。「わたしがいのちのパンです。」と。エゴ、エイミ、ホ・アルトス テース・ゾーエース。キリストにこそいのちの源があるとの宣言です。キリストのもとに行くならば、その人の魂は決して霊的に飢えることない、キリストを信じるなら、霊的渴きを覚ええることはないと言われたのです。

### 《結論》

イエス・キリストは宣教開始の前に断食をされあとに、サタンから「岩をパンに変えてごらんさい」と誘惑を受けました。その時に、主は「人はパンだけで生きるものではない」と応えられました。注目すべきことは、口から入るパンのことを否定してはおられないことです。実際のところ、私どもは日々この肉体を支えるパン（食事）をいただいて生きている存在です。主イエス・キリストはこの肉体をもって生きる人間の必要を大切にしてくださいました。だからこそ、目の見えない者の目を見えるようにし、寝たきり者の病をいやすなど、様々な病を持つ者たちと共に歩んでくださいました。しかし、それらの業をこれ見よがしにはせず、むしろ黙っているようにと言われました。人々は外側の救済だけを求めるからでした。イエスとずっとともに歩んだ弟子達ですら、外側の榮譽を求め、キリストが王になる時には、自分たちを榮譽ある地位につかせてくださいと要望したのですから。人はこの体が喜び、この世において評価されることを何よりも求める存在です。イエスは頭ごなしにそれらを否定されているわけではありません。しかし、そのままでは、真の救いを受けることはできないのです。

ここで、主は「わたしに来る者は決して飢えることなく、わたしを信じる者は渴くことがない」と言われています。あなたの魂は飢えていませんか。渴いていませんか。胸に手をおいて、考えてみましょう。あなたにはまことに平安がありますか。あなたには、恐れや不安が満ちているではありませんか。あのヤコブやヨセフの兄弟たちが、長い間、兄弟を裏切ったことに心を責められていたように、苦しんでいる方がいらっしゃることでしょう。失ったものゆえに打ちひしがれている方もいらっしゃるかもしれません。芥川のように「漠然とした不安」を持つ場合もあるでしょう。孤独な方もいるでしょう、望みを失くしている方もいるでしょう。サマリヤの女の話 (4 章) は参考になるでしょう。

主は「わたしがいのちのパンです」と言われました。エゴ・エイミというのは、I am です。いのちというのは、ゾーエー、永遠のいのちのことです。キリストはそのいのちのパンである方です。私達にこの方をパンのようにいただくような表現をされているのです。この方こそ、私たちの魂の問題にまことの解決と養いを与える宝庫なのです。何らかを奉仕をするというよりも、この方につながってこそ、いのちを得られるのです。いのちの滋養を得られるのです。この方は、私たちがこのいのちを得るために、命をかけてくださいました。また、御言葉を通して、私達に養いの御言葉をくださいました。今こそ、イエス・キリストにしっかりとつながりましょう。そして、まことのいのちのパンをいただき、御言葉によって養われていきたいものです。